

如く膝を曲げるのが障害される mechanism と脱臼との間に関係があることを示唆している。

20. 米国留学を終えて—Biomechanics の臨床応用について

林 道夫(千大)

Case Western Reserve 大学 Biomechanics 研究所 (Ohio Cleveland 市) に1年間留学し、脊柱数学模型製作にたずさわった。Paraspinal muscle を個々の筋腹に分離して起始部と終止部に細いピンを打ち込み、3-D X線撮影装置で3次元空間における筋力が作用する方向、距離、作用点を実測した。また、筋肉横断面積の測定によって個々の筋腹によって発生する Partial muscle force を計算により求めた。脊柱の構造力学的特性を測定する実験につき言及した。

21. 神経診の現況について

服部孝道(松戸市立・神経内科)

昭和50年9月より千葉大学整形外科教室にて神経内科外来を開始以来、1年3ヶ月間に実に興味ある症例を多数みることができました。側彎を主訴としてきた患者に側方視麻痺を伴う5例、Myasthenia gravis 1例、Diastatomyelia 4例、Syringomyelia 2例、Neurofibromatosis 3例、Myelopathy 1例、Dystonia musculorum deformans, 1例、末梢神経障害の症例は Charcot-Marie-Tooth Syndrome 4例、Neuralgic amyotrophy 3例、Guillain Barre syndrome 4例、Alcoholic peripheral neuropathy 1例、神経筋疾患には、Amyotrophic lateral sclerosis 5例、Progressive spinal muscular atrophy 1例、Kugelberg Welander disease 1例、Myotonic muscular dystrophy 2例、Limb-girdle muscular dystrophy 2例、その他に Parkinsonism 2例、Spinocerebellar degeneration 2例、Syringomyelia 2例、Alcoholic cerebellar degeneration 2例、Neuro Behcet 1例、Multiple sclerosis 1例、Brainstem glioma 1例、Epilepsy 以上の他に多くの Myelopathy, Radiculopathy をみました。

22. 副甲状腺機能亢進症の1例

特に術後経過に関する考察

石川正士(桜之宮病院)

第44回中日整災外学会に報告した原発性副甲状腺機能亢進症の一例につき其の後約2年間経過観察して来た知見を主に報告した。即、術後急激に低下した血清 Ca が

正常化するのに1年4ヶ月、alkali phosphatase 及びX線の骨改善に1年8ヶ月を要した。此の間、非活性型の D₂ 及 DHT を短期間投与し、夫々に Ca の上昇が容易に可能である事を確認したが、積極的投与は特に必要ないと考える。Ca に飢えた所謂 hungry bone に対しては Ca の投与が最善の治療である。

23. 脊椎および脊髄疾患における RI myelography の static image および dynamic image の検討

○永瀬譲史, 有水 昇, 曾原道和
(千大・放射線)

井上駿一, 辻 陽雄, 松井宣夫(千大)
高田典彦, 保高英二
(千葉県がんセンター)
能勢忠男(筑波大・脳外)

脊椎悪性腫瘍、椎間板ヘルニア等19例に対し、^{99m}Tc DTPA, ¹⁶⁹Yb DTPA による RI myelography を行ない、さらに clinical data system による動態画像を検討し以下の結果を得た。partial block, RI uptake の減少などの所見の得られたのは12例(63%)であり、特に myodil myelography にて所見のとらえにくい胸椎部疾患において診断上有であった。また RI の拡散の動態画像は、脊髄クモ膜下腔の通過状態を反映し、狭窄の程度を知る上で有用な情報を得た。

24. Myeloscintigraphy の適応と診断的価値について

○渋谷光柱(自治医大・放射線)
大木 勲(自治医大)

環軸椎脱臼例、頸椎後縦靭帯骨化例、頸椎間板ヘルニア例、変形性頸椎症例など各種頸椎疾患の static および functional myeloscintigram を示し、その適応に関し考察を加えた。すなわち頭頸移行部ないし上位頸椎の検索、functional myelography、特定体位保持不能患者に適応がある。さらに手技が簡単で副作用が少ないため外来患者の screening として行なえる。我々は像の鮮鋭化を試みその診断的価値を高めている。

25. 頸、胸部における新しい水溶性造影剤メトリザマイドの使用経験

○宮坂 斉, 井上駿一, 渡部恒夫
田波秀文, 高橋和久(千大)

新しい水溶性造影剤メトリザマイドによる脊髄腔造